

# 特集3

## 2023年4月1日 関東支部会報告

### ～ 天文普及としての観望会 ～

飯塚礼子（明星大学，日食情報センター）

#### 1. はじめに

2023年春、コロナ禍の生活も3年になり徐々に以前の生活に戻ろうとする兆も見えてきた。新型コロナウイルスも感染症分類を5類へ移行とゴールデンウィーク明けに検討されていた時期に今回の関東支部会を企画した。開催場所は三鷹の国立天文台ではあり、密を避けるために人数制限を設けた。私の予想より早くに制限人数に達したために、申し込みを考えられていた方や申し込みフォームのクローズが間に合わなくてお断りをさせていただいた方々が居られたことをこの場で謝罪をさせていただきたい。

#### 2. 開催に関して

ここ数年で、天文普及としての観望会の在り方や捉え方が主催者側も参加者側も変わってきたのではないだろうか。私が関わっている小中高の学校教育現場でも観望会の在り方に変化がみられる。そこで変化に対応するツールやノウハウの共有を行い、観望会をさらに目的に合った内容に引き上げたいと考え、コミュニケーションを肌で感じられるようにと対面式のみの研修会とした。

◆開催日：2023年4月1日（土曜日）

13:00~17:30

◆開催場所：国立天文台三鷹本部すばる棟

1階 大セミナー室

#### 3. プログラム

今回の支部会はお互いに内容を共有することであり、講演時間、発表時間をできる限り長く取った。また国立天文台の4D2U見学も

盛り込んだ。さらに展示見学の時間も取った。

#### 3.1 特別講演

(1)「観望会の新しいお供に：デジタル天体収集帖」のご紹介

高梨直紘（東京大学）

開発中のデジタルツールについてのご紹介である。支部会参加者は実際にそのツールを使いながら内容を確認することができた。詳しい内容については、現在進行中の案件であり、別の機会でご報告があると聞いている。

(2)「観望会の新しいお供にII：＜国立天文台望遠鏡キット&SORA＞のご紹介」

縣 秀彦（国立天文台）

一家に1台、一校に1台の普及を目指し安価で高性能かつコンパクトな組み立て式天体望遠鏡と天体観測支援ツール「SORA」についての講演である。内容について当会誌に寄稿いただいているのでご覧いただきたい。

#### 3.2 展示による天文工作の紹介



図1 天文工作の展示

船越浩海（生涯学習センターハートピア安

八)氏は天文教育のための天文教具工作キットを数々作成してこられた。支部会に複数の天文工作进行展示頂き多くの参加者から関心をお寄せいただいた。展示内容については寄稿をいただいているので、そちらをご覧ください。

### 3.3 一般発表

#### (1)「コロナ禍の観望会からメシエ駅伝へ」

石川勝也 (開成学園)

YouTube としても観望会を行っている石川勝也氏から、コロナ禍におけるメシエマラソンについての発表があった。何故、メシエマラソンが駅伝になっているのかも含めて寄稿いただいているのでご覧ください。

#### (2)「星のソムリエみたかの活動報告」

高木秀彰 (三鷹ネットワーク大学)

星のソムリエのご紹介と活動内容について高木秀彰氏より発表をいただいた。内容については寄稿いただいているのでご覧ください。

#### (3)「一般市民の天文学に対する意識調査 (速報版)」

高梨直紘 (天プラ/東大 EMP)

高梨直紘氏から現在行っている一般市民の天文に関する意識調査の発表をいただいた。引き続き調査中であり、何れ結果報告があるとのことであり、今後の結果を期待するところである。

### 3.4 4D2U 見学

支部会の最後は Mitaka による 4次元デジタル宇宙見学を行った。4D2U ドームシアタ

ー見学の前に、「Mitaka WG の活動」について、WG 代表者の波多野聡美氏より活動の現状について発表をいただいた。

### 4. おわりに

今回の支部会は先に述べたように人数制限を行っていたため、開催の案内を当会のメーリングリストのみとした。そのメールに関心のある方々に転送くださった方もおられ、参加人数は 49 名であった。対面に拘った支部会であったので、様々なところで人の環ができ、話が弾んでいる様子を見ると対面での対話の必要性を更に感じた。今後は場面により Web、対面を組み合わせることで当会の発展に寄与していきたい。



図2 集合写真 (国立天文台三鷹本部すばる棟1階の大セミナー室にて)



飯塚 礼子